

成分名	センブリ
英名	Swertia Herb
CAS No.	—
収載公定書	日局

投与経路	用途
経口投与	矯味剤

1. 単回投与毒性

該当文献なし

2. 反復投与毒性

該当文献なし

3. 遺伝毒性

① メタノール抽出液を用いた rec assay, 並びに水抽出液（代謝活性化系存在下及び非存在下）及びエタノール抽出液（代謝活性化系存在下）を用いた Ames test (TA100) において陽性反応が認められた。¹⁾ (Morimoto et al, 1982)

② センブリの変異原性は、抽出液中の hydroxyxanthone に 91%含まれる blidifolin に起因することが示唆された。²⁾ (Nozaka et al, 1984)

4. 癌原性

該当文献なし

5. 生殖発生毒性

該当文献なし

6. 局所刺激性

該当文献なし

7. その他の毒性

7-1. 一般薬理 ³⁾ (山原條二他, 1978)

① 腸管内炭末輸送に対する作用: dd 系雄性マウスにセンブリのメタノール抽出液を経口投与し, 20 分後に炭末を経口投与した。炭末液投与の 30 分後に開腹し小腸全長に対する炭末の移動率を求めた。2000 mg/kg においても炭末輸送能に対する作用は認められなかった。

一般状態に対する作用: dd 系雄性マウスにセンブリのメタノール抽出液を経口投与し, 投与後の一般状態を観察した結果, 100 mg/kg において異常は認められなかった。

自発運動量に対する作用: dd 系雄性マウスにセンブリのメタノール抽出液を経口投与し, 投与後 60 分間の自発運動量を計測した結果, 1000 mg/kg において異常は認められなかった。

その他に, Hexobarbital 睡眠, Apomorphine の常同行動, 痙攣並びに Morphine の挙尾反応に対

する作用、鎮痛作用及び体温に対する作用について検討した結果、いずれの検査項目においてもセンブリのメタノール抽出液の経口投与による影響は認められなかった。

8. ヒトにおける知見

該当文献なし

引用文献

- 1) Morimoto I et al.: Mutagenicity screening of crude drugs with *Bacillus subtilis* rec-assay and *Salmonella*/microsome reversion assay, *Mutation Research*, 97 81-102, 1982.
- 2) Nozaka T et al.: Mutagenic activities of bellidifolin, methylbellidifolin, and methylswertinin in the methanol extract from *Swertiae herba* (Gentianaceae), *Shoyakugaku Zasshi*, 38 96-101, 1984.
- 3) Yamahara J et al.: Biological active principles of crude drugs: Pharmacological actions of *Swertia japonica* extracts, Swertuemartin and Gentianine, *Yakugaku Zasshi*, 98 (11) 1446-1451, 1978.